

下土棚遊水地事業の整備状況について

- ・平成 27 年度に A 池は使えるようになるのか。

A 池は、平成 27 年度に遊水地として供用する事を目指している。その他の池は、まだ買収が完了していない用地があるため、現時点で、いつから供用できるか確定していない。

上部利用計画の検討経緯について

- ・通路は、ウォーキングコースと自転車道のすみ分けが必要。

管理用道路の幅員は 3～4m であり、人と自転車がすれ違えない場合もある。

- ・「川のことを教える」機能も必要。

看板による案内などが考えられるが、作ることが可能か行政調整会議で検討する。

- ・アドバイザー会議の意見で、「何もない空間」とはどのような空間か、またビオトープは「自然なもの」との意見だが、B 池は道路を挟んですぐ民家があるため、草が生い茂って虫が出てくるなどの影響が心配だ。

「何もない空間」とは、子供が自主的に遊びを創出できるよう、施設などを設置していない広場などであり、PTA からも同様の意見がある。

B 池の内容については、今年度から設立する「親水空間ワーキンググループ」の中で検討していく予定。

- ・先日の地元説明会では、凧揚げやどんど焼きなど昔からやっていることが出来るようにして欲しいとの意見が出ていた。

地元説明会の中で自治会からいただいた意見については、「親水空間ワーキンググループ」や地域懇談会の中で検討していきたい。

- ・「親水空間ワーキンググループ」の委員として確認したい。B 池の懸念事項としては、虫や水と触れ合う中で事故の認識の必要性等でよいか。（委員了承）

- ・下土棚遊水地の整備は、大庭遊水地と俣野（境川遊水地）の中間のイメージか。

それぞれの場所の特性を踏まえて決めていく必要があるが、素案のイメージパースを基に整備内容をつめていくことになる。

平成 25 年度の上部利用計画検討体制について

- ・アドバイザー会議のメンバーは。

委員は、学識経験者として大学の先生、地元小中学校の校長先生、こぶし荘の所長、市民自治部長、そして藤沢市、藤沢土木事務所長で構成している。

- ・「親水空間ワーキンググループ」の座長さんのご専門は。

都市緑地などをご専門とされている。

- ・B 池の検討については、地元の意見も反映されるのか。

「親水空間ワーキンググループ」の委員には、地域懇談会の小池委員なども含まれている。

平成 25 年度の検討スケジュールについて

- ・パブリックコメントでは、どの位の内容の資料を提示するのか。

まだ具体的に決まっていないが、今後のまとめり状況によって、意見聴取の仕方も変わるため、藤沢市と相談の上で決めていきたい。

- ・ 上部利用の細かい内容についての議論は、どの時点ですか。
次回以降の地域懇談会の中でも議論できる。

その他

- ・ 未買収地が買えない場合は、どうなるのか。
A池は単独で使用が可能だが、B・C・D池はつながっており一体的に整備する必要がある。用地買収できなかった場合のプランはまだなく、継続して用地交渉を行う。
- ・ 各池で検討している機能や施設のいい面と悪い面の情報を提供して欲しい。
- ・ 維持管理は永遠の問題。上手くいっている事例の紹介などをして欲しい。
境川遊水地と大庭遊水地の管理方法は、当然参考にしていきたいと考えている。

以上